

「牧師室」(2016年3月6日)

友人から贈られた新年の言葉に、「主よ、不安からわたしを守って下さい。わたしは人生に負けそうです。わたしが望むものでなく、わたしに必要なものを与えて下さい」。この言葉を語った人をわたしは名前だけしか知りませんが、その意味は十分理解できます。人間は不安に襲われると何かを求めるものです。欲しいものを手に入れたいと思いますし、必要でないものまで買ったりします。将来が不安なのでしょう。

そういう時、「わたしの望むものではなく、必要なものを」と言われていることに感銘を受けます。皆さんの場合、子供や孫に何かを買ってやる時、その基準は何でしょうか？

受難節、あるいは受難週に良く読まれる聖書の箇所にも、「わたしの願いどおりではなく」という言葉が出てきます。ゲッセマネの祈りの場面です。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせて下さい。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」です。この祈りは恐らくイエスが祈られたものの中で、最も厳しく、また慰めに満ちたものと言えるでしょう。

最後に今年の3月のボンヘッファーの言葉を紹介します。

「キリストは苦しみと痛み、罪と死をわたしたちより深く知っておられた」。

「同じように、」ではなく「より深く」なのです。この違いは非常に大きくキリストの死と十字架の意味を、わたしたちに黙想させてくれます。